



KUSHIRO WEST ROTARY CLUB 2017~2018 (平成 28 年~29 年)

釧路西ロータリークラブ会報

創立 昭和 45(1970)年 6 月 8 日 承認 昭和 45(1970)年 6 月 10 日

2017~2018 RI テーマ 「ロータリー：変化をもたらす」



《例会日：毎週月曜日 12：30~13：30》

《例会場：ANA クラウンプラザホテル 釧路市錦町 3-7》

会長 松田 正昭 幹事 金田 剛

■クラブ事務所■

釧路市幸町 14 丁目 1-1 ノースコートサンスイ 2F

TEL(0154)23-6175 FAX(0154)23-6123

《本日のプログラム》 7 月 31 日 18：30

普通例会

クラブアッセンブリーガバナー公式訪問

《次回のプログラム》 8 月 7 日 12：30

夜間例会

会員卓話 (小泉直前会長、松田直前幹事)

2017 年 7 月 31 日(月) 第 4 回 通算 2191 回

【点鐘】 松田会長

【ロータリーソング斉唱】 「四つのテスト」 ソングリーダー：佐藤 会員



【お客様と来訪ロータリアンの紹介】



◆国際ロータリー第 2500 地区◆

ガバナー	成瀬 則之
第 7 分区ガバナー補佐	漆崎 隆
第 7 分区ガバナー補佐幹事	渡辺 雅樹
地区財務委員長	高田 巧
地区副幹事	近藤昌義

【会長挨拶】松田会長

皆様、こんばんは。

先週の日曜日、ちょうど1週間前になりますが、成瀬ガバナーの地元であります網走市において、2017-18年度 米山記念奨学会セミナーと、ロータリー財団セミナーが開かれ出席してまいりました。登録の手違いで欠席扱いになっておりましたが、参加することが出来、本間地区幹事様にはお忙しい中お手配をいただきまして、この場を借りて御礼申し上げます。さて、午前中に開かれました米山記念奨学会セミナーでは、奨学会事務局より栞原めぐみさんがお見えになり「米山奨学事業について」としてお話がありました。今年度は創立50周年に当たるということで今まで以上に協力頂きます様にとお願いされております。大学生、大学院生を中心とした外国人留学生を、世話クラブ制度とカウンセラー制度によって支援・交流を推し進めることとなっております。今年度の奨学生は全国で52か国、793人、累計では125か国、19,808人となっております。2500地区では7か国9人の奨学生を受け入れております。過去累計の国別では中国と韓国で56%を占めており、地域バランスが求められております。現在はベトナムからの奨学生が増えているようです。奨学事業はほぼ全額が寄付金で賄われており、当クラブも皆様より前期・後期に分けてご寄付をいただいております。クラブとして今後も奨学会活動に協力してゆきたいと思っております。午後からのロータリー財団セミナーでは、グローバル補助金、地区補助金についての説明並びにご報告がございました。また、米山奨学会とは別で、国内の児童施設へむけた国際ロータリー奨学金制度のご報告もあり、釧路では、まもり学園で5名がこの制度を受けられております。地区補助金では今年度、バイククラブ様が第7分区8クラブの代表として、来春竣工の庶路小中学校への植樹事業に4,100ドルを申請しております。また、皆様よりも当事業の分担金を頂戴しております。これは8クラブ在籍315名分の桜の木を敷地内に植えるもので、また幸いなことに、植樹後の管理は地元自治体で行っていただけるとの事です。セミナーのご報告は以上ですが、一昨日、近くの公園を散歩してましたら、たまたま某Lクラブの記念植樹看板を見つけました。しかしながら周りには肝心の桜の木は見当たりませんでした。「200本植樹」という看板のみがぽつんと残されており、これを見て後々の管理の大切さを痛切に感じました。ロータリーの友7月号で、ライズリーRI会長は「持続可能な奉仕」が大切であると述べられておりました。例として、井戸を掘ったからといって立ち去ることはせず、その地域が維持、修理できるようにまでするのがロータリーの奉仕であるとのことでした。当クラブでは、36回を数える青少年柔道大会、同じく36回目の小学校バレーボール大会をはじめ、ハマナス群生地修復作業、献血奉仕活動など約30年以上継続している地域への奉仕活動がございます。改めて、この奉仕の歴史を消さぬよう、皆様と活動してゆきたいと強く感じた次第です。以上、会長挨拶といたします。

【幹事報告】金田幹事

本日の幹事報告はございません。

◎親睦活動委員会…小栗副委員長



ニコニコ献金

ご厚志

・成瀬 則之ガバナー

ゴルフベストスコア記念

・松田会長

【本日のプログラム】

ガバナー公式訪問 担当：理事会

◎成瀬ガバナー講話



会長・幹事懇談会、無事終了致しました。クラブ協議会に引き続き宜しくお願いします。私は、今回これだけは言いたいと思っていた事は、松田会長のテーマであります「融和と対話」私にとって非常に心に残る言葉となっております。是非この融和と対話を基調にここのクラブが発展されますように祈っております。私、何を話そうかは、懇談会、協議会を終えてから考えます。なので、原稿はございません。67 クラブ皆さんの顔をみて原稿なしで話そうと決めました。実は、うちの副幹事に、一番最初に行

った美瑛ロータリークラブで原稿読むな！人の顔をみて話せ！それでないとお前の個性はでない！と言われまして旭川グランドホテルの一室に原稿を全て捨てました。それ以来原稿なしでスピーチしていますので、何を話すかはその時にならないと解らないのです。会報委員会の方は非常に大変だと思います。そのようなかたちで 67 クラブ全てまわらせていただいております。先程、健康には留意してくださいと言いました。私は妻にこういうふうに言われました「酒もタバコも控えるのではない皆さんとお会いした時、常にニコニコしてなさい。あなたはプレッシャーに負けてしまう。だから好きにやりなさい。そのかわり家では、禁煙です。」それを守ってここでもタバコを吸わせてもらっていますし、お酒も多少は嗜んでいます。私、今回活動計画の一番最初にポリオに終止符をとる事を書かせていただいております。私は、もともとポリオに関心があったわけではございません。RI の方からも何かいわれたという事もございません。こうゆう立場になってからホームページですとか Web サイトをみて少しでも勉強したいと思ってクラブホームページを数百クラブみさせて頂きました。その中で一つだけ非常に心に残るホームページがございました。東京麹町ロータリークラブの回顧録を皆さんに紹介したいと思います。1982 年東京麹町ロータリークラブに山田彝会員とドクターであります峰英二会員の二人がいらっしやいまして昔は 321 プログラムというプロジェクトがありまして、この二人がこのプロジェクトに参加するために南インドのマドラスに 4 週間。麻疹の撲滅キャンペー

ンのために行くことになりました。4 週間だったと思いますが、インドで滞在しておりまして昼間は一生懸命駆けずり回っていました。夜になるとなんとなく周りがガサゴソという音がしたのだそうです。なんだろうと思って宿舎のカーテンをめくってびっくり仰天。絶句されたそうです。当時インドではポリオが流行しておりまして、蔓延しておりました。そのガサゴソといった音はポリオに罹った乳児や幼児。子供たちは足が動かないので必死で前に進む音。それが草をかき分けるガサゴソという音だったそうです。お二人はしばらく声がでなかったそうです。当時インドではそういう子供たちが悲惨な目にあっていました。それに胸を打たれたお二人は帰ってきてすぐに東京麹町ロータリークラブ会長・理事会に報告されます。会長さん即座に色々なことを考えたそうです。翌年1983年。東京麹町ロータリークラブ創立15周年を迎えます。その時にこの前年度の会長さん、山田さん、峰さんお二人の強い意志がありましてなんとかインドの子供たちを一人でも多く助かってほしいと思い、ポリオワクチンを買って服用させようと計画をたてました。ポリオワクチンはどこに売っているのでしょうか。いくらするのでしょうかよくわかりませんが、当時のお金でかなりのお金がかかったと思います5000人分をよういしまして二人は再びインドに参ります。インドのマドラスロータリークラブの方々が支援します。一ヶ月間ポリオワクチンの投与。口から服用させるのですがこの二人の資料を見ても生きていますのか死んでいるのか起きているのか寝ているのかわからないけれども、とにかく子供達を助けようと手だけは動いている状態だったそうです。私はインドにいった事はありません。1980年代のインドの状況が全然わかっていませんが、環境は悪かったんだろうと思います。その中で、24時間不眠不休で一生懸命子供を救うためにワクチンを服用させたそうです。帰りの飛行機の中でぐったりと死んだように日本に帰国されます。日本に帰ってからその頃の理事会で、インドで行ったポリオ撲滅プロジェクトを報告されました。その時にRIのとった措置。当時世界社会奉仕事業。各国でいろいろな何百というプロジェクトがありました。その中でこのポリオに対する撲滅のプロジェクトを最優先順位に致しますという認定がおりたそうです。次にRIはこういう措置をとります。1986年7月から1991年6月までの間。むこう5年間。これは当時としては大変異例なことです。ポリオ撲滅。それと5つの伝染病ジフテリア・百日咳・麻疹などを撲滅するために世界中で募金キャンペーン。これを5年間行うという事で結論を出し決定しました。総額2億1700万ドルかなりの高額だったと思います。寄付集めが始まります。私は網走ロータリークラブ2代目のガバナーであります。ちょうど30年前1987-88年秋永智徳という方がガバナーをされておりました。この方がこのキャンペーンにどっぷりはまりまして私が直接同ったわけではありませんが、当クラブの先輩達に聞きますと相当上からの締め付けがあったそうで、あちこち奔走されたということを知りました。日本国内ではこのようなガバナーたちの必死の努力で48億9000万円分の錠剤が集められたそうです。そのあとの事はよくご存知のようにいまだにポリオに関することはいろいろなことをやっています。RIの決意が続いていると思います。お話を少し戻させていただきます。1988年東京麹町ロータリークラブ20周年の記念式典を迎えます。この時栄えある会長の座に山田彞会員が就きます。ところが3ヶ月後に急死されます。一緒に同行された峰会員も後を追うように他界されました。この回顧録の一番最後にこのような結びの言葉で終わっています。「志半ばにしてインドでの風土病によってお亡くなりになられたお二人はまさしく壮絶な戦士のようなものである。」というように書かれてこの回顧録は終了しております。RIが一生懸命やっていること。それが日本人が命をかけてやり遂げようとしたこの行為。この事だけは次の世代に我々が伝える義務がある。東京麹町ロータリークラブは毎年100万円とか200万円

とかポリオをなんとか終わらそうとして寄付をしているそうです。私は東京麹町ロータリーとは縁もゆかりもありませんが、こういう日本人がいたという事。情熱。信念。それだけは次の世代に伝えたいと思ひまして皆様にお話させていただきました。どうぞ東京麹町ロータリークラブのホームページを覗いてみてください。三部作になっている回顧録。一番最初にこの文章がのっています。その時私は涙なくしては読めませんでした。RI に先駆けて子供たちを救おうと信念に突き動かされた日本人がいたということ。敬意を表したいと思ひます。これからは私はポリオに関してだけでも何とか寄付を集めたいという思い出いっばいです。今残されているのは3カ国くらいです。1980年代当時ポリオ常在国25カ国35万人の子供たちが非常に苦しい目にあっていました。それを考えると今は非常に少なくなってまいりました。アフガニスタンでありパキスタンですが、今非常に悲惨な内戦がおこっている。RI から派遣された医師たちが多くお亡くなりになっているところでもあります。私たちがここに足を踏み入れることはできません。寄付を集めるしかないのです。皆さんこの事を十分お考えいただいて寄付をお願いしたいと心から思っています。ポリオは我々が罹るわけではありません。乳児や幼児がかかる病気であります。ポリオワクチンを投与して予防していくしかありません。ポリオに終止符を！是非ご協力をお願いします。続きまして世界と日本に関しまして少しだけお話をさせていただきます。次は、妻も参加しました国際協議会のお話です。1日目は民族衣装を着て和やかに。2日目はRI 会長エレクトのイアンHSライズリー氏の講演がありました。180分講演されました。奉仕のことを非常に熱心にしゃべられる方で我々の心を打たれるスピーチでございました。この中で「超我の奉仕」というお言葉をお使いになりました。

いろいろな奉仕の理念・理論を私たちに教えていただきました。日本からいった34名大変感激しまして「オーストラリア人、なかなかやるじゃん。」と思ひました。日本人だけじゃないんだ。超我の奉仕。奉仕の理念がここにもきちんとある。その中で私たちはこういう状況の中でもロータリーとしての誇り、尊厳を守りながら地域に根ざして一生懸命やっている姿をみんなにアピールしなければならない。事態が一変したのは、3日目の午前中であります。次に縁談にたった方ロータリー財団のトップであります。ロータリー財団管理委員長ポールベゼルという方が、日本人としては非常に残念であります。ロータリー財団管理ポストのRI会長をやめてからおつきになるポストだそうです。ポールベゼルさんはいろいろなお話をしましたが、私たちには、ちんぷんかんぷんで伝わらなかったです。また、ロータリアンという言葉は一切使いません。我々のことをどういうふうにいったかといいますと、120万人の慈善家のネットワークとおっしゃいました。慈善家活動で9年連続の四ツ星をとっている。最後にこんなふうに言いました。認識向上とは、達成を堂々と自慢することである。だから世界で良いことをしたら財団は褒められて当然。だから、皆さん褒められるようなことをしましょうと話しを締めくくられました。これにはビックリ仰天、最初に聞いたHSライズリーとの格差がかなりありました。RIは弱体化しています。財団のやり方は強引であります。日本人は人徳の美学があります。私たちは、なんの為に、バッジをつけているのでしょうか。私たちは、ロータリアンです。私は、ロータリーが好きです。日本人の誇りをもって奉仕活動を実践したいと思ひます。先程もお話しましたが、会員増強は大切です。大きいクラブだろうが小さいクラブだろうが、和をもって将来の話をきちんと話しあう。それが一番大事だと思います。私は「融和と対話」という松田会長のテーマが大好きであります。私たちはロータリアンです。バッジに嘘をつくわけにはいきません。私は、ロータリーが大好きです。それよりなにより人間が大好きです。いろんな方とお話してそれが私にとってもプラスになるしクラブにとってもプラスになるかも

しれないという思いをもって、各クラブをまわらせていただいています。私はそう考えています。67クラブ全部に添えるかどうかわかりませんが、寄り添える、双方向で考えられるそんなガバナーになればいいなと思っています。2500地区のために少しでもできる事があれば私に寄り添って何かをしていきたい。信念だけはふれずに、そして情熱だけは持って一年間やらせて頂きます。ご清聴ありがとうございました。

◎バナー交換



【会長謝辞】 松田会長



成瀬則之ガバナーより、大変ありがたいお話を頂戴いたしまして、誠にありがとうございました。本日は限られた時間の中で、大変貴重なお話をお伺いさせていただき、これにより、また当クラブの今後の運営にも励みになると確信いたしました。心より感謝申し上げます。この広大な2500地区のなかにあつて、67クラブの公式訪問は相当大変なご労力であると想像に難くありません。今後とも、お体に十分留意されまして無事ガバナー公式訪問を終えられます事を、また10月に網走で開催されます地区

大会がご盛会・成功で終わられますことを祈念申し上げます。加えましてガバナーのご職業が秋サケ定置ということで、これからが最もお忙しい時期となりますが、オホーツク地区にとどまらず道東地域全体の漁業・水産業界の発展のためにも、漁期いっぱいの操業と大・大・大漁を、心より祈念いたします。誠に、お粗末な挨拶ではございますが、御礼の言葉に代えさせていただきます。本日は長い間お時間を賜り誠にありがとうございました。

～クラブ協議会（17：00～）の様～



【次回例会のご案内】

8月7日（月曜日） 12:30～

会員卓話（小泉直前会長、松田直前幹事） 担当：理事会

《例会運営委員会 三木委員長》

7月31日 在籍数 29名

出席者 23名

欠席者 6名

「編集：上杉委員」

出席率 79.3%

会報委員長： 上杉 朋巧 副委員長： 三木 克敏

委員： 櫻田 美香 菊地 康平 鶴間 秀典 杉野 史和 高畑 哲也 請川 透